

えひめ地域づくりアワード・ユース2018

(公財) えひめ地域政策研究センター

研究員 和田 健太郎

若い世代の地域

づくり活動を支援し、活性化につな

げることを目的

に(公財)えひめ

地域政策研究セ

ンターが「えひめ

地域づくり研究会

議」との共催で創

設した、高校生等

の地域づくりに関する活動を表彰する

『えひめ地域づくりアワード・ユース

2018』を行いました。

第2回目となる今年は、県内の高等学

校21校27グループ・個人(総勢485

人)から応募がありました。12月中旬に

書類による第一次審査を行い、平成31年

1月26日愛媛県庁第一別館11階会議室に

おいて、最終審査に進出した5団体によ

るプレゼンテーション審査会と表彰式を

行いました。どの高校の取組も地域への

愛着と誇りに溢れたすばらしいものでし

た。審査の結果は次の通りです。

最優秀賞

南宇和高等学校「地域振興研究部」

優秀賞

今治北高等学校大三島分校「地域研究部」

三崎高等学校「せんたん部」

審査員特別賞

松山商業高等学校「地域ビジネス科1年」

丹原高等学校

西条農業高等学校「食農科学科果樹班」

今治西高等学校「海外研究部」

伯方高等学校「俳句文化発信プロジェクト」

伊予農業高等学校生活科学科2年(25R)」

大洲農業高等学校「大農蕎麦's(そばーず)」

北宇和高等学校

「えひめ地域づくりアワード・ユース」

には、愛媛県、愛媛県教育委員会、

報道関係各社の後援を頂きました。主催

者による表彰に加え、高校生の地域づく

り活動にご理解を頂いた企業・団体から

副賞として、今後の活動の糧となる貴重

な商品等のご提供を賜りました。ありが

とうございました。



森田浩治センター理事長



活動発表の様子



トロフィーと副賞(企業協賛品等)



優秀賞
三崎高校せんたん部



優秀賞
今治北高校大三島分校地域研究部



最優秀賞
南宇和高校地域振興研究部

世界へ届け！愛南ゴールド 「特産品開発からグローバルGAP認証 取得へ」

愛媛県立南宇和高等学校
「地域振興研究部」

活動の目的

愛媛県の最南端にある愛南町が生産量日本一を誇る農産物が愛南ゴールド（河内晩柑）です。しかし、現在、農家数の減少



表彰式

による産業の衰退が課題になっています。そこで私たち地域振興研究部が愛すべき故郷である愛南町の特産品である愛南ゴールドをジュラートやジュース、マーマレードなどに加工し、町内外で販売、PR活動を行い、町を元気にしていくことを目的に活動しています。

活動の概要

まず、本校で栽培した愛南ゴールドを使った加工品作りを計画し、西予市にある、「潮彩館」でのジュース製造、内子町にある「内子フレッシュパークからり」とコラボしたジュラート製造、本校

校内で製造したマーマレード、シロップを開発。その加工品を紹介するため、町内や県内のイベントに参加したり、東京や沖縄で販売実習を実施し、PR活動を行いました。さらに農産物の生産工程管理に関する国際規格であるグローバルGAP認証にも挑戦。平成30年4月に愛南ゴールド・甘夏で取得しました。この認証取得は、県内の高校では初めて、柑橘においては、全国の高校で初めての快挙でした。

今以上にこのPR活動を進めるため、高知県安芸市で毎年開催されている「第11回全国商い甲子園」にも挑戦し、元気のある販売、工夫した接客などが評価され、優勝である岩崎弥太郎賞を受賞しました。



愛南ゴールドで町を元気に！

活動の成果と今後の展望



第11回全国商い甲子園

町外、県外での活動を通して、田舎だからこそ素晴らしいさや豊かさが愛南町にはあるということを再認識しました。また、新聞、CATVや地元広報誌などで私たちの活動が大きく紹介されることで、町を元気にすることにつながっています。

今後の展望は、3月に東京のデパートで開催予定の愛南町フェアへの参加、2020東京オリンピックピック、パラリンピックでの食材として愛南ゴールドを提供することを大目標にしながら、ふるさとである愛南町を愛し、愛南町に貢献する大人になりたいと思っています。

「私たちの大三島」 魅力創出・発信プロジェクト

愛媛県立今治北高等学校大三島分校
「地域研究部」

はじめに

私たちの学校がある大三島は、しまなみ海道のほぼ中央に位置しており、大山祇神社を中心とした観光業と柑橘栽培の農業が中心の島である。過疎化や少子高齢化が急速に進み、島に唯一の県立高校として70年にわたって地域に支えられてきた大三島分校は廃校の危機に瀕している。大三島の活性化と学校の存続のために私たちができる取組は、「大三島の魅力の創出と発信」であると考え、様々な活動に取り組んできた。



活動の概要

全校生徒数約80名の小規模校だが、「全員全力！一人ひとりが主役です。」を合言葉に、地域に根ざした多くの活動を行っている。活動に関する詳細は、2019年1月発行vol・139本誌「舞たうん」の⑭⑮ページを御参照ください。

- 1 伊東建築塾との協働「島デザイン部」
 - ・建物等を再利用するための改修作業
 - ・施設等で利用していただく椅子作り
- 2 大山祇神社参道ボランティアガイド
- 3 瀬戸内島しょ部高校との交流や地域PRイベントの創出
- 4 大三島紹介パンフレットの作成
- 5 パンフレットを用いたPR活動
- 6 地域おこしイベントの創出
- 7 地域行事におけるボランティア活動
- 8 地方祭などへの積極的な参加

活動を通しての感想

大三島分校に入学するまでは、何年も住んでいないはずの大三島のことをあまり知らなかった。しかし、入学をきっかけに、地域の方と深く関わりながら活動を進めていき、多くの方と協力体制を築くこともできた。特に「夕涼み会」というイベントでは、島内外から多くの方に来ていただき、来年への期待をよせていただいたことも活動の大きな励みになった。また、写真甲子園に出場することになり、まるで自分のことのように喜んでくださったり温かい励ましの言葉をかけてくださったりする方と出会い、大三島のことがますます好きになった。これからも学校存続と大三島のために地域活性化活動を続けていきたい。(一年MS)

以前は大三島や学校の未来のことにあまり興味を持っていなかったが、地域活

性化活動に取り組み、大三島のことを理解していくにつれて島や学校の将来が心配になってきた。このままでは大三島は廃れて人のいない島になってしまう。大三島を元気にしたい。との一心で活動してきた。活動を進めるにつれて、地域の方々の他に建築家の伊東豊雄さん、FC今治オーナーの岡田武史さん、サイボウズ社長の青野慶久さんなど著名な方までもが私たちの活動に対して興味を持ち協力してくださったことに驚きを覚えた。自分たちが行動を起こすことで、人とのつながりができ、新たなチャンスが生まれるということも、実感することができた。地域・人とのつながりを大切にしながら、これからも地域のために努力していきたい。(三年RS)

活動の成果と今後の展望

活動を通して地域理解が深まるとともに、今まで気付かなかった地域の魅力を改めて発見でき、多くの生徒が大三島のことを好きになったことが大きな成果である。パンフレットがきっかけで、県外から大三島に訪れた方がいたり、私たちのガイドを聞いて、また大三島に來たいと言ってくださる方がいたりするなど、私たちの活動の成果も感じられる。今後は「大三島お仕事図鑑」の作成を計画しており、定住人口の増加につながる活動に取り組んでいきたい。

ふるさとのバトンをつなぐ

愛媛県立三崎高等学校

「せんたん部」

1 私たちの1歩

私たちはこれまで、将来は何もないふるさとを出て行くことが当たり前だと思っていた。私たちのその考えは高校入学後に「三崎おこし」に取り組む先輩たちと出会い、大きく変わった。ふるさとを愛し、守りたいと思うようになった。そして、今、私たちはふるさとの未来を変えるために、「せんたん部」のメンバーとして、自分たちにできる精一杯の活動を続けている。



せんたん部

2 佐田岬ジャンボリー

午前中に、ブイを使った「ブイランタン」を制作し、午後からはインスタ映え選手権を行った。夜



佐田岬ジャンボリー

には制作したブイランタンのライトアップと、インスタ映え選手権で撮影した写真のプロジェクトマップピングを行った。多くの地域の方にも見に来ていただき、ブイランタンが点灯した時には、大きな歓声が上がった。

3 みさこうたいそう115

「みさこうたいそう115」は、私たちの「みんな さいこうの このまちを うみだそう」という、思いから生まれた体操である。115という数字には、「伊方町の健康寿命を115歳まで伸ばしたい」という思いが込められている。地域のイベントや地元中学校の体育祭などでも行われるようになっていく。また、地元ケーブルテレビで健康体操として毎週土曜日の早朝に放送されている。



みさこう体操

4 せんたんビギンズ

伊方町と三崎高校をアピールするため、外部の映像作家や芸術家の方たちと一緒に、映画『せんたんビギンズ』を撮影した。せんたん部誕生の経緯を、フィクションとノンフィクションを織り交ぜ

て紹介するというストーリーで、全編佐田岬ロケで撮影した。地域の方にも多数出演していただき、伊方町の魅力がぎゅしりつまった作品になった。

5 せんたんミーティング

9月に高校生サミット「せんたんミーティング」を開催した。「せんたんミーティング」は、私たちの「もっと多くの人とつながりたい」という強い思いから生まれた、地域活性化に取り組む高校生や大学生と交流するために、せんたん部が企画・運営したイベントである。この企画を通して生まれた絆は、今でも私たちの大切な宝物である。



せんたんミーティング

6 バトンを未来へ

私たちはこれからも明るい未来を信じ、自分たちに自信を持って行動し続ける。先輩たちが、この美しく温かいふるさとを、ふるさとを愛する気持ちを渡してくれたように、私たちもこのバトンを次の世代へとつないでいきたい。自分たちのふるさとの未来をつくるのは自分たちだと信じて。